

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2023年3月期 第2四半期決算 補足説明資料

<目次>

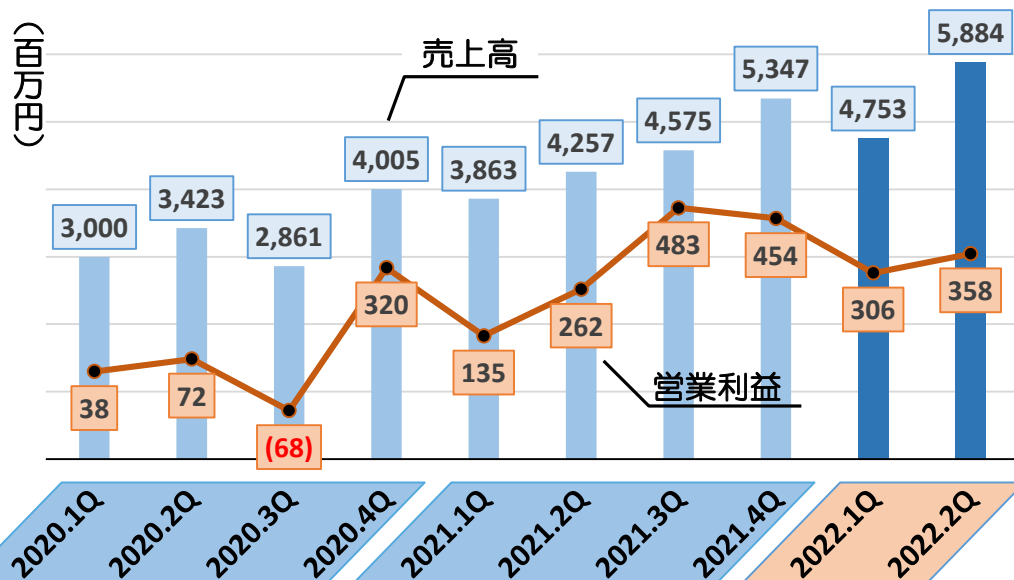
1. 2023年3月期 第2四半期決算概要
2. 通期連結業績予想、配当予想
3. TOPICS

2022年11月14日

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2022年度第2四半期 連結決算概要

(単位：百万円)	2021年度 第2四半期累計	業績予想 22年8月10日付	2022年度 第2四半期累計	増減 (前年同期比)	増減 (業績予想比)
受注高	10,074	-	11,856	+1,781	-
売上高	8,120	9,900	10,637	+2,516	+737
営業利益	397	700	664	+266	△36
経常利益	397	600	1,026	+629	+426
親会社株主に帰属 する当期純利益	252	340	657	+404	+317



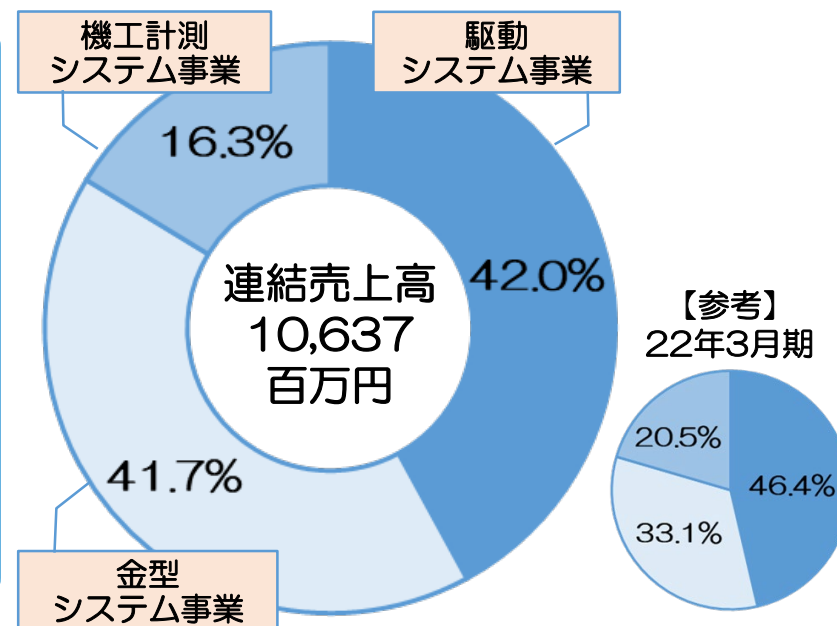
- ◆ 半導体・各種分析関連装置市場向け駆動システム商品の受注が堅調に推移。加えて自動車向け金型システム商品の需要が好調に推移し受注高は高水準を維持。
- ◆ 売上高は駆動システムの増産に加え、金型システムでも特にモーターコア製品の売上増が寄与し大幅増収。
- ◆ 営業利益は増収効果が寄与した一方、製造・販売コスト増加の影響を受け664百万円で着地。為替差益・ロイヤリティ収入等により経常利益1,026百万円、当期純利益657百万円と、いずれも前年同期比で増益。

単位：百万円	受注高 (前年同期比)	売上高 (前年同期比)	営業損益 (前年同期比)
駆動システム事業	4,548 (Δ776)	4,476 (+387)	622 (+92)
金型システム事業	5,250 (+2,477)	4,434 (+1,856)	166 (+93)
機工計測システム事業	2,065 (+81)	1,734 (+273)	Δ110 (+82)

◆**駆動**： 受注高は部材不足による顧客の生産調整等の影響により前年同期に及ばなかったものの、主要市場の半導体製造装置・各種分析関連装置分野向けを中心に引き続き高い水準を維持。潤沢な受注残を背景に増産の結果、前年同期比で増収増益。

◆**金型**： 車載用モーターコア製品の受注増加により受注高は大幅に増加。前年同期比で増収増益。

◆**機工計測**： 自動車業界の減産、部品納期の長期化等の影響を受けた一方、積極的な受注活動・調達努力により、前年同期比で受注・売上高は増加、損失額は減少。



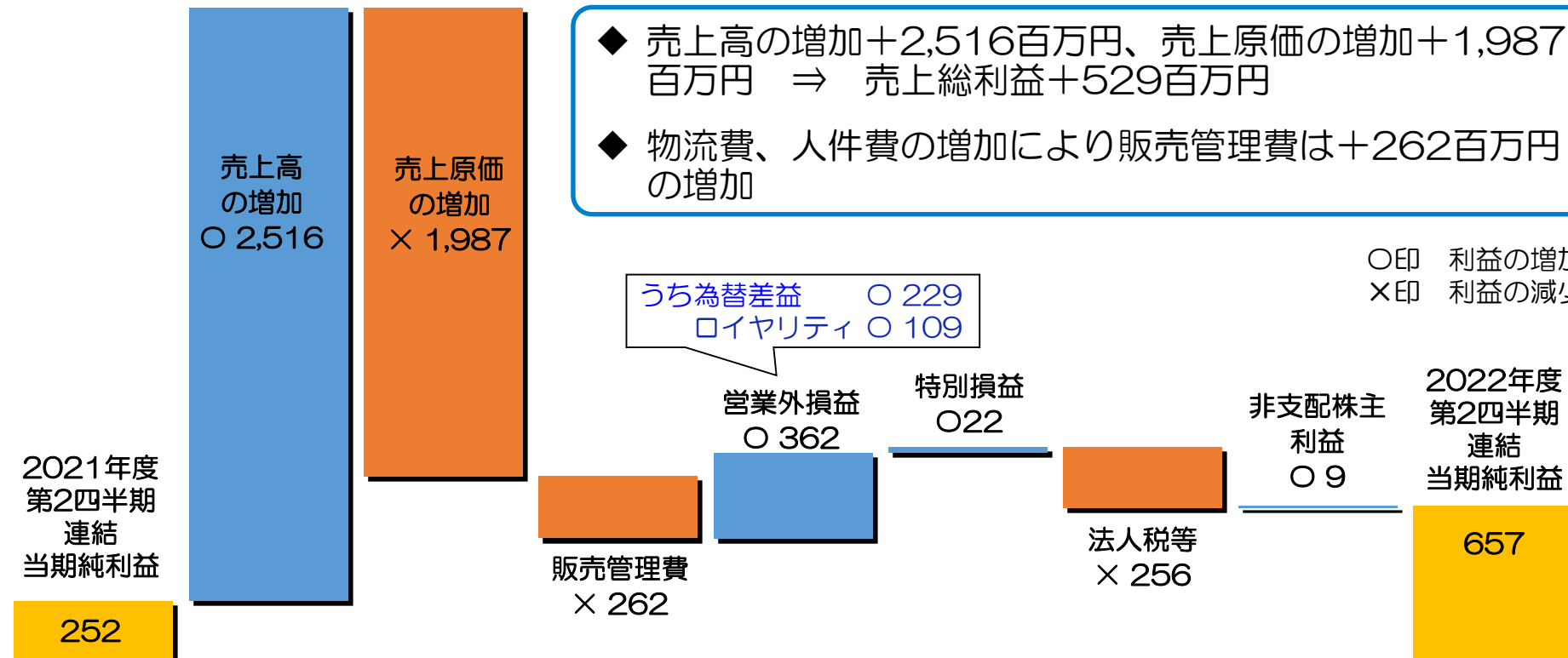
前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位：百万円)

- ◆ 売上高の増加+2,516百万円、売上原価の増加+1,987百万円 ⇒ 売上総利益+529百万円
- ◆ 物流費、人件費の増加により販売管理費は+262百万円の増加

うち為替差益 ○ 229
ロイヤリティ ○ 109

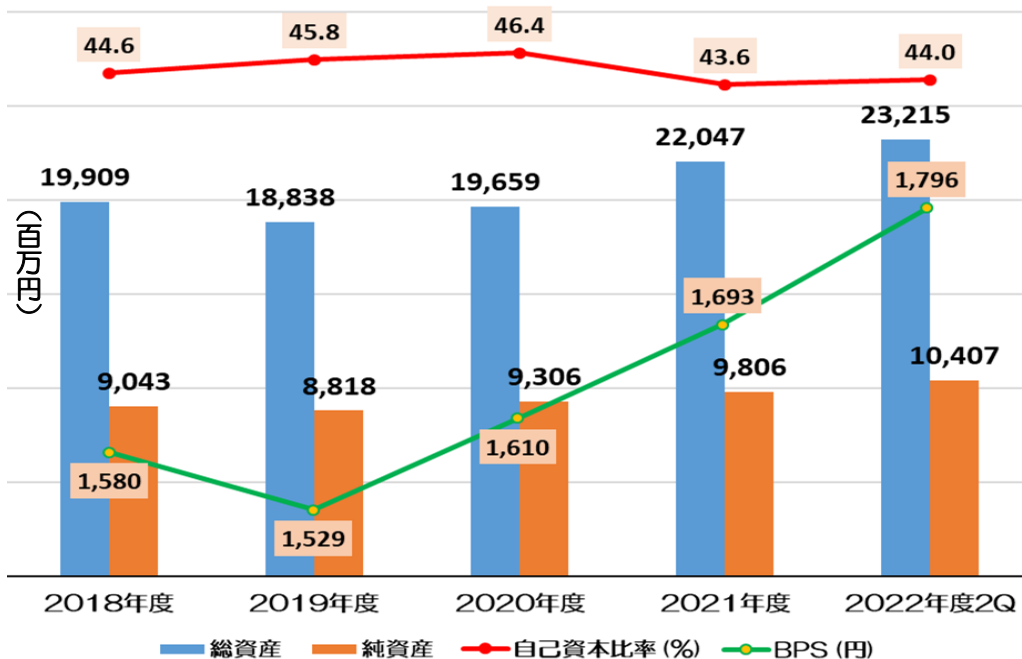
○印 利益の増加
×印 利益の減少



前年同期比 +404百万円

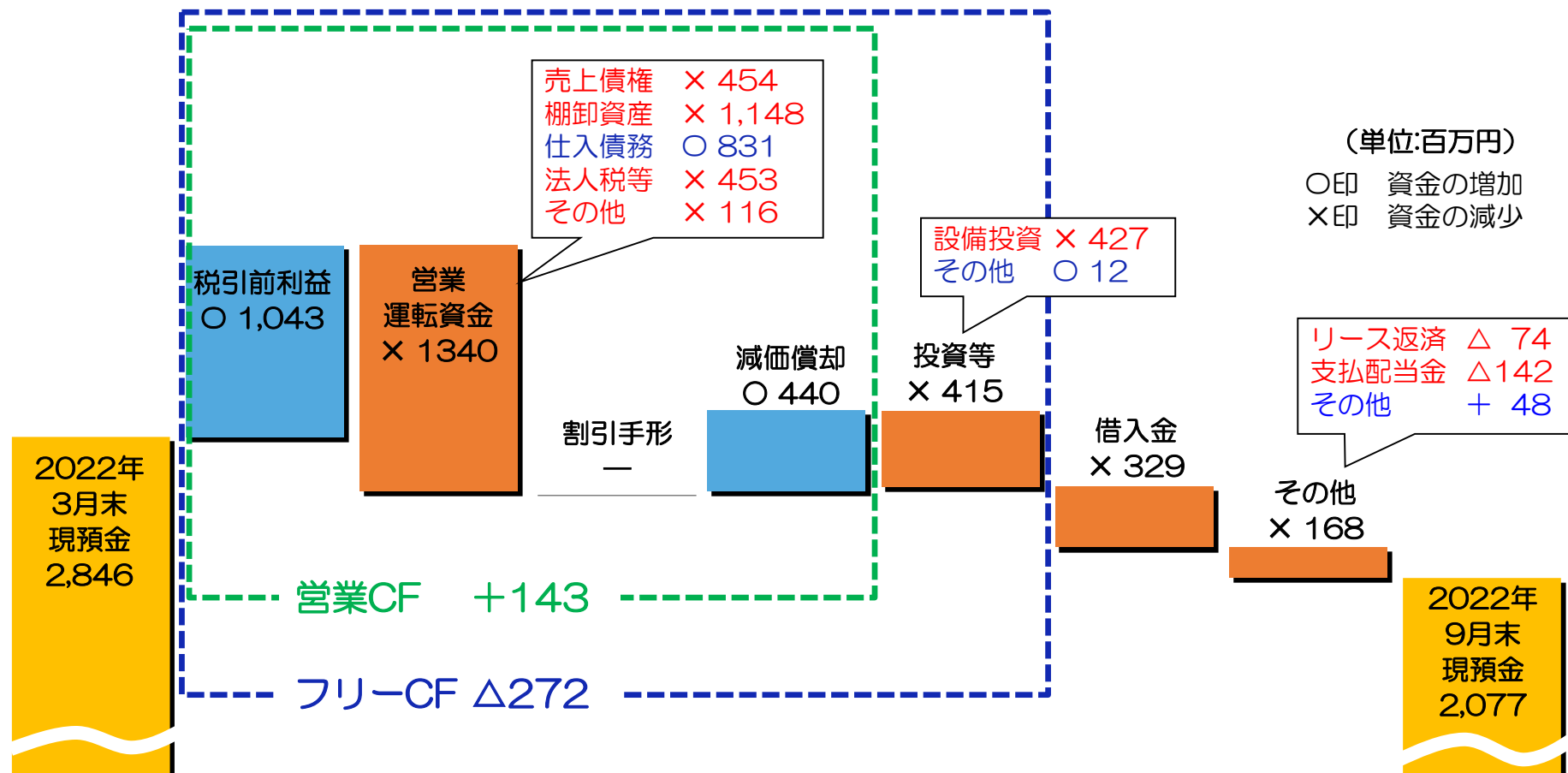
連結貸借対照表

	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 第2四半期	増減
総資産 (百万円)	22,047	23,215	+1,168
純資産 (百万円)	9,806	10,407	+601
負債合計額 (百万円)	12,241	12,807	+566
自己資本比率 (%)	43.6	44.0	+0.4 P
1株あたり純資産【BPS】 (円)	1,693	1,796	+103



- ◆ 総資産：前年度末比+1,168百万円増加
⇒ 流動資産+1,156百万円（棚卸資産の増加、売上債権の増加）
- ◆ 純資産：前年度末比+601百万円の増加
⇒ 株主資本+533百万円（利益剰余金の増加等）、その他の包括利益累計額+68百万円の増加（為替換算調整勘定の増加）
- ◆ 自己資本比率：44.0% 前年度末比+0.4ポイントの上昇

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因



前年度末比 $\Delta 769$ 百万円

2. 通期連結業績予想、配当予想

2022年度通期連結業績、配当予想

単位記載の無い項目は百万円	前年度実績 (22年3月期)	2022年度 第2四半期累計	今年度通期予想 (22年8月10日)	前年度実績比 増減率
売上高	18,042	10,637	20,000	+11%
営業利益	1,334	664	1,350	+1%
経常利益	1,437	1,026	1,250	△13%
親会社株主に帰属 する当期純利益	563	657	700	+24%
1株あたり 年間配当金(円)	25円00銭	—	31円00銭	—
配当性向(%)	25.2%	—	25.2%	—

- ◆ 主要顧客である半導体・各種分析関連装置市場に加えて車載用モーターコア製品において、潤沢な受注残を背景として売上高は引き続き堅調に推移する見込み。一方、連結利益は一部海外子会社が景気減速の影響を大きく受けることに加え、工場移転に伴う一時的なコストの発生が見込まれること、国内外で部材調達コストやエネルギーコストの上昇、物流費の増加など、見通しが不透明であることから、2022年8月10日に公表した数値は変更しておりません。今後の業績動向を見ながら、修正の必要が生じた場合には、速やかに修正、開示いたします。

セグメント	見通し
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 半導体市場は足もと調整局面を迎えており一旦は需給が緩和する見通し。一方で、当社顧客の大手半導体製造装置メーカーやロボット・分析関連装置等の分野を中心に前期に引き続き堅調な需要が見込まれる。 ◆ 中期投資計画の前倒し実行等により、生産体制の更なる強化と生産～出荷までの自動化を推進し、納期短縮と売上増加に繋げる計画。 ◆ 欧州経済の減速、工場移転に伴うドイツ子会社の一時的な損失拡大により、連結業績に影響を受ける懸念。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の車載用モーターコア金型およびモーターコア製品は、前期に引き続き好調な需要を維持する見込み。 ◆ 長野工場の拡張など新たな設備投資、海外提携先とのビジネス拡大と国内提携戦略の拡大により、金型システムおよびモーターコア製品の供給能力の増強を段階的に図る計画。（ただし、増産体制構築完了まで一時的には外注コスト等の増加が発生） ◆ 半導体等の部材不足、ロックダウンによる地域的な物流の混乱等で当社または顧客の生産計画に変更が生じ、売上に影響を及ぼす懸念。
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム商品の需要は緩やかに回復の傾向が続いており、受注高の回復が見込める。 ◆ 海外の販売・サービス網の強化、自動化設備や産業用ロボット分野など国内外新市場の開拓・深耕を計画。 ◆ 電装部品等の調達難、輸送費の高騰、円安の状況は当面の間継続すると見られ、生産コストの上昇に繋がる懸念。

3. TOPICS

◆ 伊藤忠丸紅鉄鋼グループと合併会社「紅忠黒田ラミネーション株式会社」の設立合意



伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社、紅忠コイルセンター関東株式会社および当社は、モーターコア製造事業を行う合併会社を設立することに合意しました。当社が持つ最先端のモーターコア製造技術と、伊藤忠丸紅鉄鋼グループが持つコイルセンター機能・プレス操業ノウハウを集約し、高品質・高性能な電動車駆動用モーターコアを量産することを決定したものです。会社設立は2023年1月の予定、2023年4月の生産開始を目指します。

◆ ユーログループとの Glue FASTEC® ライセンス契約の延長

2022年11月、ユーログループ（本社イタリア）との間で2014年9月に締結した、当社独自の金型内接着積層技術である Glue FASTEC® のライセンス契約の延長契約に両社間で合意に達しました。ユーログループでは、本ライセンス契約に基き製造する車載用モーターコアの増産を図るため、欧州・米州・中国の各生産拠点に於いて、新工場の建設や大型プレスラインの増設等に既に着手しており、車載用モーターコアの供給能力を一段と強化する計画です。



◆ 長野工場で車載用モーターコア製品の新生産棟（第8工場）および倉庫棟建設に着工

当社長野工場では、2022年8月に交付決定を受けた経済産業省「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」を活用し、車載用モーターコア専用の生産棟（第8工場）と倉庫棟の建設工事に着工しました。総投資額は約16億円、2023年11月の稼働開始を目指します。

◆ 第38回「素形材産業技術賞 経済産業大臣賞」を受賞



当社金型システム事業部の開発チームが「第38回素形材産業技術賞 経済産業大臣賞」を受賞いたしました。素形材産業技術表彰制度は昭和60年度に創設された制度で、一般財団法人素形材センターが主催し、優秀な素形材産業技術の開発により、日本の素形材産業の技術水準の進歩向上に著しく貢献した技術の開発者を表彰するものです。今回受賞した技術は、Glue FASTEC®の技術と金型2列化の技術を統合し、高効率な電動車駆動用モータコアを量産する技術です。

◆ 第6回「精密工学会ものづくり賞 優秀賞」を受賞

公益社団法人精密工学会主催の「第6回ものづくり賞」にて当社の「平面研削盤用オプション機能である「自動アタリ出し機能」、「自動ドレス機能」の開発」が優秀賞を受賞いたしました。精密工学会ものづくり賞は、精密工学の分野で、社会的価値の高い製品や技術を開発した中小・中堅企業等に対し、その精進と努力に報いるとともに、更なる発展を支援することを目的として贈られるもので、今回受賞した機能は、従来、作業者の経験や技能に頼っていた作業を自動で行えるようにした生産性を向上させる画期的な機能です。



自動アタリ出し機能



自動ドレス機能

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>